



かきぬひかし通信

～仲間とともに伸びる子 主体的に学ぶ子 いのち・人権を大切にする子～

<今月の巻頭言>

校長 松宮 孝明

「はやぶさから、はやぶさⅡへ、そして・・・」

みなさんは、はやぶさって知っておられますか？

そうです、日本が誇る小惑星探査機です。平成22年に小惑星「イトカワ」から初代はやぶさが地球に帰ってきて、平成26年にははやぶさⅡが小惑星「リュウグウ」を目指して地球を出発し、昨年無事帰ってきました。

持ち帰った岩石で、太陽系が生まれた約46億年前のこと、生命体の存在などいろいろなことが解明できるのではと期待されています。

46億年前と聞いても、30億キロと聞いてもピンときませんが、壮大な宇宙計画だということだけはわかります。

そして、それを成し遂げていっていることにも感激します。

そこで、その初代はやぶさに関わるプロジェクトマネージャーを務めていた、(株)日本電気の萩野さんの話が大変興味深かったので紹介します。

「はやぶさは30年前に提案され、学生がそれをふくらませて、30年後に現実になったんです。ということは、その次の計画の探査をするのは、まさに今の小学生なんです。」

「大人は、種をまくにすぎないんです。はやぶさやはやぶさⅡの経験をきちんとフィードバックし、現実的な話をして、若い人たちが「やっていける!」「やりたい!」という雰囲気作りをしていかなければならないと思います。」

当時、はやぶさの計画は、かなり無謀な挑戦だったそうです。そこで、JAXAは、「加点方式」を採用したそうです。つまり、ダメなところばかり指摘して改善していくのではなく、「それいいね!」「その考え採用していこう!」というように、それぞれの長所を認め励まし、研究を進めていったということです。

小学校の現場にいる私たちも考えさせられました。読んでくださっている保護者の皆様も同じだろうと思います。これからの子どもたちに、夢や希望を持たせ、困難なことをおそれないで何事にも挑戦する気概を持たせるためにも、減点方式ではなく、加点方式を取り入れていきたいものです。

1年間、ご支援ありがとうございました。本当に感謝しています。卒業式前の最終号は、卒業生に向けて書きたいので、まとめの話にさせていただきました。

2月の子どもたちの様子



1年生

ヨーヨーやあやとりなど、昔の遊び体験を楽しみました。



2年生

みんなで協力して、版画の印刷をしました。



3年生

盲導犬ユーザーの方のお話を聞きました。



4年生

平らなところやスロープなどで、車いす体験をしました。



5年生

「6年生を送る会」にむけて準備をがんばりました。



6年生

1年生の子たちと交流遊びを楽しみました。

笠縫東小：こころの教育コーナー

もらう人より与える人になる

「生きる上で大切なことは、人や社会に貢献することである！」

アドラーは貢献することこそが、人生の真の意味であると言っているんだ。もし、何に対しても貢献することなく、ただ、自分の好きなように生きるとしたら、わがままな人になってしまうよね。人に貢献することばかり考えていたら、自分のことは大事にできないと思うかもしれないけれど、アドラーはその問いに対しても答えを用意しているんだ。人や社会に貢献して、自分は役に立っていると感じられたら、自分のことが好きになる。そうしたら、たとえ苦しいことがあっても乗り越える力が生まれると知っているよ。

(「超訳 こどもアドラーの言葉」 齋藤 孝 著より)